

二中の木

学校報
第7号
H29/07/21



能代市立
能代第二中学校

2017 SUMMER! 『輝く夏休み』にするために

先号では、家族の絆について書かれた三行詩をもとに家庭の人として地域の人として、夏休みをどのように過ごしたら有意義なものになるのかについて考えました。

今号では、運動部のほとんどの三年生がその活動に幕を下ろした今、「これまで抱いてきた夢、志を改めて家族と一緒に確認したり、新たな目標を打ち立てたり」といった夏休みであってほしいと考えています。



部活動に燃えた 二年と数ヶ月の日々

東北大会への出場権を得た皆さん、本当におめでとうございませう。多くの人の応援を受けて、やろうとしてできなかった皆さんのために、あなたにしかできない意味のある夏休みにも思ってもらいたいと思います。

県予選大会、県大会を競技種目として思うような結果を残せなかった皆さんにとって、部活動の幕の降ろし方



としては、上手くできたでしょうか。昨年書きましたが、大会を通じて、競技への思いを強くして高校で再び挑戦しようと思えることも多いでしょう。

保護者に支えられ、地域に満ちた中で中学校の区切り、高校での新たな道を探すのもよいでしょう。

いずれにしても、新たなスタートを切るために、この二年と数ヶ月の日々が、自分にとってどんな意味があったのか、どんな意味を持たせなければならぬのかをしっかりと考えてください。意味をしっかりと考



え、その意味を自分の心に落ち着けることを、決着を付ける」と言います。

決着の有無は、三年生の後期後半にとつて大切なポイントです。少し大げさに言うとも将来に効果を発揮しそうな、深く考えるに値する課題です。



夢」と志」の境目





「夢」も「志」も、自分や自分の周りの将来に希望や可能性を見出そうとする前向きな気持ちと関係する言葉であることに違いはないようです。

「志」には、成し遂げようとする強い意志のようなものを感じます。また、自らの「幸い」ばかりではなく、社会

あの坂本龍馬 が考える志とは？

いったん志を抱いたら、事が成し遂げられるための方法だけを考え進まなければならない。いやしくも、弱音を吐くなどの事があつてはならない。

～司馬遼太郎著作・一部編集～

や他人の「幸い」の実現にも目が向けられるようになった時に「高い志」と

評価してもらえないようです。

弱音を吐くなどの事があつてはならない。」とありますが、行き詰まると、時には家族や友達に弱音を吐き、それでも「志」を失うことのない自分なのかを確認しながら進むことがあつても良いと、私は思います。時には遠回りだつて・・・。

三年生にとっては、差し迫った進路選択があります。「志」の遂げ方は、このように十人十色。しかし、そのための覚悟の確かさだけは、絶対に持っていないといけなぬもののようにです。この夏休みをいつもの夏休みから変化させる行動があつて初めて、覚悟の確かさが示されたと言えそうです。

～志～

- ある者
 - ・明確な目標
 - ・努力が習慣化
 - ・時間を意識
 - ・計画に自信
 - ・できる方法
 - ・他人への貢献
 - ・使命感
 - ・成功への意欲
 - ・新たな挑戦
 - ない者
 - ・曖昧な目標
 - ・気まぐれ努力
 - ・時間にルーズ
 - ・思いなき計画
 - ・できない言い訳
 - ・責任を回避
 - ・途中放棄
 - ・現状甘受
 - ・経験だのみ
- 人たるもの、自分への約束を破ることが最もくだらぬ～吉田松陰先生～

「二中の木」に、幾度か登場した資料たちです。三年生に限らず、二年生も夏休みの取り組みの目安にしたいと思えます。

今、卒業生である高校二年生二人が「インターシップ」で母校を訪ねています。わずか三日間の体験ですが、意味ある体験となることを期待しているところですよ。

裏面へ

より確かな「志」へ



二年前、高校入試がすぐ間近に迫った頃、校長室で入試に向けた面接練習をしていました。十年後のあなたは、いったい何に取り組んでいるあなたでしょうか？

「と質問したところ、二人は確かに教師になって、生徒と一緒に活動していると思います。」と答えたのでした。続けて「なぜ教師に？」と質問したところ、「甲の〇〇先生のように、生徒のために熱心に指導してくれる先生の姿に憧れたからです。」と応じたのでした。

正確には、あれから一年と四ヶ月が経過しましたが、嬉しそうな笑顔ではっきりと話してくれたことをよく憶えています。

将来を見据えて、中学生の時の「志」をより確かにし、身近にたぐり寄せようと努力する姿、潔くまっすぐ「志」に向かって進む姿に会えて本当に嬉し



社会での活躍に思い巡らせる同窓生。空き時間を利用して控え室で実習日誌を書いているようです。大暑間近の或る一日の風景です。



思い定める夏休み

思い定めて頑張りましょう
二中 三つの合い言葉

- 自主 宿題には攻めの姿勢で
※守りでは気力は生まれません
- 不屈 誘惑に負けない正しい目と
※行動には慎重さと欠かさず
- 友愛 友と自分を粗末にせず
※思いやりが自らと育てる



炎帝も

見のがし過ぐる

苔の井戸

秋多

葉隠れて

喉突き出すや

黒鶉くろつぐみ

秋多

炎帝とは、猛暑を擬人化した表現です。緑色の木漏れ日に、見え隠れする井戸の周りの苔は水を含んで涼し気です。もう一句は、能代の風の松原にもやってくる夏鳥、声の美しさピカ一のクロツグミを題にしたものです。美しい声だけは松林によく響くのですが、姿をなかなか見せません。夏ならではの風景でした。

【終】